

国際共同研究事業 令和2（2020）年度実施報告書

令和 4 年 4 月 21 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[代表者所属機関・部局]
慶應義塾大学・経済学部
[職・氏名]
教授・井深 陽子

1. プログラム名 欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム (ORA)

2. 研究課題名

(和文) 介護における社会経済格差と制度が格差に与える影響に関する研究：国際比較の視点から

(英文) How are varying care systems associated with inequalities in care and wellbeing in later life?

3. 共同研究実施期間（全採用期間）

平成 31年 3月 1日 ~ 令和 5年 3月 31日（ 4年 1ヶ月）

4. 研究参加者（代表者を含む）

(1) 日本側参加者 7 名 (2) 相手国側参加者 13 名

5. 主要な物品明細書（一品又は一組若しくは一式の価格が50万円以上のものを購入した場合は記載）

物品名	仕様 型・性能等	数量	単価(円)	金額(円)	設置研究機関名	備考
Apple iMac Pro	10core Intel Xeon W プロセッサ, 1TB SSD, 128GB メモリ	1	763,180	763,180	慶應義塾大学	

※本事業の委託費と他の経費とを合算使用する際は、合算使用した旨を備考欄に記載した上で、金額は本事業の委託費で負担した額のみ記載してください。

※再委託先/共同実施先における支出である場合は、備考欄にその旨を記載してください。

7. 渡航実施状況

(1) 当該年度に相手国又は相手国以外の国を訪問した日本側参加者（委託費から支出した出張のみ記載。相手国以外の国における用務先には下線を付すこと。）

氏名	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)
該当なし		
計 0 名 (延べ人数)		

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日」（旅行開始日～旅行終了日）

(2) 当該年度に受入れた相手国側参加者

氏名	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)
該当なし		
計 0 名 (延べ人数)		

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日」（旅行開始日～旅行終了日）

8. 研究実施状況

※当該年度実施計画書の「5. 本年度実施計画の概要」の内容と対応させつつ、当該年度の研究の実施状況を簡潔に記載してください。再委託又は共同実施を行った場合は、それぞれの研究の実施状況がわかるように記載してください。

※年度途中で当初計画を変更した場合にはその内容及び理由も記載してください。特に、各費目の増減が研究経費の50%（この額が300万円を超えない場合は300万円）に相当する額を超えた場合は、変更理由と費目の内訳を変更しても研究の遂行に支障がなかった理由を記載してください。

2020年度は新型コロナウイルス感染症流行下で大幅な計画の変更を余儀なくされた。当初予定していた2020年度内の2回のORA欧州3カ国のメンバーとの合同会議は実施不可能となった。予定していた会議のうち、欧州3カ国のORAプロジェクトメンバーと外部の専門家からなるアドバイザリーボード会議は、オンラインでの会議に変更された（2020年6月24日実施）。2020年度の海外渡航が困難であることが予想され、また2021年以降の見通しが不透明であったことから、海外渡航のための予定されていた費用を研究推進のための博士研究員の採用に伴う費用として変更した（2020年8月）。日本メンバーとの研究班会議もオンラインでの会議に変更された（2020年10月29日実施）。

2020年11月のGerontology Society of America(GSA)の年次総会(オンライン)では、ORAの4国のプロジェクトメンバー5人からなるシンポジウム“The IN-CARE project: Socioeconomic inequalities in care use and provision across countries and over time”を形成し、井深と大津により“Socioeconomic status and long-term care provision in Japan”を報告した。発表を計画していた2020年12月のAsian Workshop on Econometrics and Health Economics（マニラ）は開催が中止となった。

研究の具体的な進展としては、2020年度および2021年度の延長期間を通じて、WP1：国際比較をするための公的介護保険制度および政策の変遷に関するデータベース作成は欧州メンバーと共同して進行した。WP2：介護需要・サービス利用と心身の健康状態における社会経済的勾配の研究については、高齢者が最期を迎える場所と地域における介護資源の関係、および社会経済状況との関係の分析を行い論文としてまとめ公刊した。WP3：家族内介護提供と心身の健康状態における社会経済的勾配の研究について、2021年度の延長期間に、社会経済状況と介護提供との関係を論文として刊行した。あわせて、2020年度および2021年度の延長期間を通じて家族内介護の提供が介護者のウェルビーイングに与える影響と影響の社会経済状況による異質性の分析を経済産業研究所他「JSATR（くらしと健康の調査）」を用いて進めた。WP4：介護保険制度変更の政策効果の因果推定は、2021年度の延長期間において2006年の制度改正による介護保険制度の給付縮小が介護提供者のウェルビーイングに与える影響の分析を厚生労働省「国民生活基礎調査」を用いて進めた。

2019年度に続き2020年度を通して、月に1回のペースで欧州3カ国とオンライン会議を行い、研究の進捗に関する情報共有を行った。

9. 研究発表（当該年度の研究成果）

【雑誌論文】 計（ 4 ）件 うち査読付論文 計（ 3 ）件

通番	共著の有無*1	論文名、著者名等*2
1	無	Evaluation of regional variations in healthcare utilization, Yoko Ibuka, Yasumasa Matsuda, Keishi Shoji, Tsukasa Ishigaki, <i>Japanese Journal of Statistics and Data Science</i> 2021; 3; 349-365.
2	無	Place of Death and Density of Homecare Resources: A Nationwide Study in Japan, Takaaki Ikeda, Toru Tsuboya, <i>Annals of Geriatric Medicine and Research</i> 2021; 25(1); 25-32.
3	無	Socioeconomic status and long-term care provision to parents in Japan, Yoko Ibuka, Yui Ohtsu, <i>Innovation in Aging</i> 2020; 4(Suppl 1); 725. (カンファレンスの要旨)
4	無	Socioeconomic status and the likelihood of informal care provision in Japan: An analysis considering survival probability of care recipients, Yoko Ibuka, Yui Ohtsu, <i>PLoS One</i> 2021; 16(8): e0256107.

【学会発表】 計（ 2 ）件 うち招待講演 計（ 0 ）件

通番	共著の有無*1	標題、発表者名等*2
1	無	Socioeconomic status and long-term care provision to parents in Japan, Yoko Ibuka, Yui Ohtsu, Gerontology Society of America, Annual Scientific Meeting (2020年11月、オンライン)
2	無	Socioeconomic status and long-term care provision to parents in Japan, Yoko Ibuka, Yui Ohtsu, 日本経済学会2020年秋季大会 (2020年10月、オンライン)

【図 書】 計（ 0 ）件

通番	共著の有無*1	題名、著者名等*2
1		

*1 相手国側参加者との共著（共同発表）がある場合は○、相手国側参加者との共著であり謝辞等に事業名を明記している場合は◎と記入。

*2 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、学会発表の場合は標題、発表者名、学会等名、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報、など（順番は入れ替わってもよい）。相手国側参加者との共著となる場合は、著者名が複数であっても省略せず、その氏名を記入し下線を付すこと。

*3 足りない場合は適宜行を追加すること。